

日本簿記学会ニュース

No. 50:12 / 2010

《部会・大会の経過報告》

第26回関東部会は、平成22年7月31日(土)に、青森公立大学(準備委員長:池田享誉氏)にて、第26回全国大会は、平成22年8月27日(金)から29日(日)に京都産業大学(準備委員長:吉岡一郎氏)にて、各々開催されました。詳しい内容は本紙部会記および全国大会記をご覧ください。

《大会・部会のご案内》

第27回関西部会は、平成23年5月28日(土)に沖縄国際大学(準備委員長:大城建夫氏)にて、第27回関東部会は、平成23年6月下旬に帝京大学(準備委員長:岩崎健久氏)にて、第27回全国大会は、平成23年8月下旬に法政大学(準備委員長:菊谷正人氏)にて各々開催される予定です。

《第26回全国大会正会員出席者状況》

第26回全国大会への正会員の出席者の状況は以下の通りでした。

	全	体	大学関係者	高等学校	専門学校	職業会計人	その他
参加者数	246名		208名	27名	2名	8名	1名
比率	100.0%	(注)	84.6%	11.0%	0.8%	3.3%	0.4%

(注) 各区分の比率を小数点第一未満で四捨五入しているため、僅少差0.1%が生じておりますが、便宜上、表示しておりません。

《平成22・23年度研究部会のテーマおよびメンバー》

平成22・23年度研究部会のテーマおよびメンバーが先の総会にて下記の通り承認されました。

簿記理論研究部会テーマ:「現代簿記論に関する研究:現代簿記論の生成と展開について」

部会長:橋本武久(京都産業大学)

委員:石光 裕(京都産業大学) 桑原正行(香川大学) 清水泰洋(神戸大学)

辻川尚起(兵庫県立大学) 原 俊雄(横浜国立大学) 吉岡一郎(京都産業大学) 和田博志(近畿大学)

顧問:興津裕康(近畿大学名誉教授)

簿記教育研究部会:「明治以降の商業学校の簿記・会計教科書の歴史の研究」

部会長:木戸田力(佐賀大学)

委員:海 沢洲(近畿大学), 洪 慈乙(山形大学), 高橋和幸(九州国際大学),

園 弘子(高知工科大学), 岸川公紀(佐賀大学), 望月信幸(熊本県立大学),

国元康寿(梅光学院大学), 江頭 彰(久留米商業高校), 石津扶美子(県立佐賀商業高校),

渡辺利視(茨城県立水戸商業高校), 上野清貴(中央大学), 岩崎 勇(九州大学),

矢野沙織(佐賀大学大学院生)

簿記実務研究部会:「地域振興のための簿記の役割—農業・地場産業を対象として」

部会長:戸田龍介(神奈川大学)

委員:工藤栄一郎(熊本学園大学), 鶴池幸雄(沖縄国際大学), 浦崎直浩(近畿大学),

佐藤信彦(明治大学), 飛田努(熊本学園大学), 外間礼子(沖縄大学)

《平成 22 年度日本簿記学会・学会賞及び奨励賞の審査報告要旨》

第 26 回大会（京都産業大学）の会員総会においてご報告いたしましたように、平成 22 年度の学会賞と奨励賞は、理事会において、学会賞審査委員会での授賞審査をふまえ、以下のように決定いたしました。

学会賞：授賞該当対象なし

奨励賞：津村怜花氏（事業創造大学院大学）

「『馬耳蘇氏記簿法』および『馬耳蘇氏複式記簿法』に関する一考察」
(第 25 回大会自由論題報告・『日本簿記学会年報』(第 25 号) 掲載)

まず学会賞については、残念ながら本年度は授賞該当対象なしと決定いたしました。本学会の学会賞は、簿記に関する研究業績（著書・論文）だけでなく、簿記に関する教育上および実務上の工夫もまた授賞審査の対象になります。会員諸氏におかれては、授賞審査の対象となると考えられる研究業績や教育上・実務上の工夫があれば、他薦と自薦を問わず学会賞審査委員会まで積極的にご推薦ください（なお、学会賞の推薦用紙は、学会ホームページ（<http://www.hakutou.co.jp/boki/>）よりダウンロードできます）。

次に奨励賞は、昨年度の大会においてその創設が承認されたものであり、本年度が授賞の初回にあたります。授賞審査対象は、「日本簿記学会奨励賞規程」において、「会員が本学会の大会および地域部会において報告し、本学会学会誌に掲載された簿記に関する研究ならびに教育上および実務上の工夫のうち、完成には至っていないものの評価に値する新たな試みとして、概ね 40 歳に達しない者により執筆されたもの（共著も含む）」（第 2 条）と定められています。端的に言えば、簿記の研究・教育・実務におけるキャリアの短い会員諸氏に対して、大会や地域部会での報告と学会誌への掲載を促し、簿記に関する研究または教育上・実務上の工夫を奨励するための賞と位置づけられます。

学会賞審査委員会では、初回の授賞審査にあたり、上記の「奨励賞規程」の文言とともに、その背後にある奨励賞創設の趣旨をふまえて、積極的に授賞する方向で審査を行うという基本方針を立て、これに基づき審査した結果、本年度は上掲の津村氏の論文に授賞する結論に至りました（なお、授賞理由については、奨励賞規程に従い、既に会員総会場で公表しておりますので、省略させていただきます）。

本年度の奨励賞は 1 作品のみが授賞対象となりましたが、審査委員会としては今後とも積極的に授賞する基本方針に基づき審査にあたりたいと考えておりますので、本年度の大会と地域部会で報告された該当の会員諸氏におかれては、報告内容をまとめられ、授賞審査の前提となる学会誌への投稿を積極的に行っていたきたいと期待する次第です。

日本簿記学会学会賞審査委員会
委員長：中野常男

《選挙管理委員会》

8 月 28 日（土）に開催された第 26 回全国大会会員総会において、第 27 回全国大会時に行われる役員選挙に向けて、選挙管理委員会が設置されることが報告されました。委員会のメンバーは以下のとおりです。

選挙管理委員：泉宏之（横浜国立大学）、上野清貴（中央大学）、古賀智敏（同志社大学）、
佐藤信彦（明治大学）、高須教夫（兵庫県立大学）

幹事：清水泰洋（神戸大学）、原俊雄（横浜国立大学）、和田博志（近畿大学）、
渡邊貴士（亜細亜大学短期大学部）、渡辺雅雄（明治大学）

なお、選挙管理委員会において、委員長には古賀智敏氏が選任されました。

また、会費納入期日までに会費の納入がなく、2 年にわたり会費を滞納した場合には選挙権が与えられませんので、ご注意ください。

日本簿記学会 第 26 回関東部会記

青森公立大学
準備委員長 池田 享 誉

日本簿記学会第 26 回関東部会（準備委員長：池田享誉）は、平成 22 年 7 月 31 日（土）に青森公立大学で開催された。参加者は 72 名であった。本部会では、記念講演、統一論題報告および統一論題討論が行われた。

記念講演は、横山和夫氏（東京理科大学）の司会のもと、新田忠誓氏（埼玉学園大学・一橋大学名誉教授）による「簿記の役割と資産負債アプローチ—会計制度変革期における簿記と会計—」という論題で行われた。講演では、「同一取引同一仕訳の原則」と「簿記は形式会計は実質」という二つの視点から、資産負債アプローチのもとで必要となる帳簿記録が詳細に論じられた。

統一論題は、「会計制度変革期における簿記教育の課題」であり、泉宏之氏（横浜国立大学）の司会により、次の 3 氏による報告が行われた。

第 1 報告は、関根慎吾氏（石巻専修大学）による「純資産の部の導入と簿記教育—現代株式会社法制下での資本等式の意義—」であった。氏は、まず、会社法における資本準備金の取崩規定を手がかりとして会社法における資本概念を示した。そのうえで、新株予約権を利用したストックオプションをとりあげ、それが純資産に含まれている意味を検討し、純資産の部の導入が従来の資本等式における資本を純資産に読み替えるというだけの変化にはとどまらず、資本等式に変容が生じていることを指摘した。最後に、今後、株式会社や株式の仕組みを踏まえた簿記教育が必要になってくるであろうと展望した。

第 2 報告は、千葉啓司氏（千葉商科大学）による「IFRS アドプションと簿記・会計教育—大学会計教育の日米比較を中心として—」であった。氏は、IFRS のアドプションが大学における簿記・会計教育にどのような変化をもたらすかについて、米国と比較して検討した。特に、複式簿記教育と概念フレームワーク教育の 2 点に焦点をあてて比較を行い、日米の簿記・会計教育の共通点と相違点を明確に示しつつ、「貸倒引当金」を例に、概念フレームワーク

と具体的会計処理との整合性をどのように図るかという問題が今後日本においても生じてくると提起した。

第 3 報告は、浅倉和俊氏（中央大学）による「会計制度変革期において簿記教育に何を求めるか—大学のカリキュラムと簿記検定試験の出題範囲の変遷を手がかりに—」であった。氏は、ラカトシュの研究プログラム方法論を手がかりに、会計制度である外部財務報告システムには、複式簿記という確立された技法を用いている側面と、複式簿記を基礎とする新しい諸会計基準の展開という側面の 2 側面があると指摘した。前側面に相当する複式簿記の基本的仕組みを教える簿記教育（検定 3・4 級レベル）は変更不要だが、後側面に相当する会計基準の新設と改訂を教える簿記教育（1・2 級レベル）は変更の必要があるとして、大学カリキュラムに設定すべき科目を提起した。

統一論題討論では、各報告者に対して、吉田智也氏（福島大学）、中野貴元氏（イーグローバルレッジ株式会社）、原俊雄氏（横浜国立大学）、神納樹史氏（新潟大学）、柴健次氏（関西大学）、佐藤信彦氏（明治大学）、池田幸典氏（高崎経済大学）、渡辺雅雄氏（明治大学）から質問が寄せられ、活発な議論が展開された。

本部会開催にあたってご協力いただきました関係者各位に対しこの場をお借りして感謝申し上げます。また、遠方にもかかわらずご参加いただきました多数の会員の皆様に厚くお礼申し上げます。



日本簿記学会第26回全国大会記

京都産業大学 吉岡一郎
準備委員長

日本簿記学会第26回全国大会は、8月27日（金）から8月29日（日）までの3日間にわたり、京都産業大学を会場として、「資金会計と複式簿記—損益計算、資金計算の並存可能性—」の統一テーマのもと開催された。記録的な猛暑の最中の京都での大会に、約270名の多数の会員にご参加いただいた。

大会初日には、学会賞審査委員会および理事会が開催された。大会2日目には、高等学校簿記教育懇談会、会員総会、学会賞受賞報告、研究部会報告、統一論題報告および懇親会が行われた。大会3日目には、自由論題報告、記念講演および統一論題討論が行われた。

大会2日目の会員総会では、会務報告、入退会者、決算および監査、次年度予算、次年度全国大会および地域部会、新年度研究部会等について各担当理事から提案がなされ、承認された。新年度研究部会としては、簿記理論研究部会「現代簿記論に関する研究—現代簿記論の生成と展開について—」（部会長：橋本武久氏、京都産業大学）、簿記実務研究部会「地域振興のための簿記の役割—農業・地場産業を対象として—」（部会長：戸田龍介氏、神奈川大学）、簿記教育研究部会「明治以降の商業学校の簿記・会計教科書の歴史の研究」（部会長：木戸田力氏、佐賀大学）の3つが設置された。また、第1回日本簿記学会奨励賞として、津村怜花氏（事業創造大学院大学）の論文『「馬耳蘇氏記簿法」および「馬耳蘇氏複式記簿法」に関する一考察』（『日本簿記学会年報』第25号所収）の受賞が報告された。

会員総会に続き、倉田幸路氏（立教大学）の司会のもと、昨年度学会賞受賞者である橋本武久氏（京都産業大学）の受賞報告（『ネーデルラント簿記史論—Simon Stevin 簿記論研究—』同文館出版、2008年）が行われた。続いて研究部会報告が行われ、井原理代氏（香川大学）の司会のもと、簿記理論研究部会「情報技術の発展と簿記理論の変容」（部会長：河崎照行氏、甲南大学）、簿記教育研究部会「『教養としての簿記』に関する研究」（部会長：上野清貴氏、中央大学）、簿記実務研究部会「新会計基準における勘定科目の研究」（部会長：菊谷正人氏、法政大学）の最終報告が行わ

れた。

統一論題報告は、瀧田輝己氏（同志社大学）の司会のもと、「資金会計と複式簿記—損益計算、資金計算の並存可能性—」を統一論題として、上野清貴氏（中央大学）「キャッシュ・フロー会計と複式簿記の統合論理」、佐藤倫正氏（名古屋大学）「資金勘定組織の現代的意義」、高須教夫氏（兵庫県立大学）「複式簿記とキャッシュ・フロー計算書—因果的簿記と分類の簿記—」、藤井秀樹氏（京都大学）「複式簿記と資金会計」の報告が行われた。

統一論題報告の終了後は、会場をハイアットリージェンシー京都に移して懇親会が行われ、多くの会員の参加をいただいた。

大会3日目の自由論題報告は、3つの会場で行われた。第1会場では、清水泰洋氏（神戸大学）の司会により、足立典照氏（元・大阪学院短期大学）、林繁一氏（税理士）、また佐藤信彦氏（明治大学）の司会により、三光寺由実子氏（松山大学）、池田幸典氏（高崎経済大学）の各報告が行われた。第2会場では、徳賀芳弘氏（京都大学）の司会により、二村雅子氏（名古屋大学大学院生）、小阪敬志氏（明治大学）、また泉宏之氏（横浜国立大学）の司会により、佐藤雄一氏（帝塚山大学）・向井篤弘氏（帝塚山大学）、江頭彰氏（久留米商業高等学校）の各報告が行われた。第3会場では、山田康裕氏（滋賀大学）の司会により、姚小佳氏（近畿大学大学院生）、豊憲一郎氏（公認会計士）、また松本敏史氏（同志社大学）の司会により、望月香苗氏（大阪国際大学）、吉岡正道氏（東京理科大学）・稲垣勝也氏（東京理科大学大学院生）・仁木めぐみ氏（東京理科大学大学院生）の各報告が行われた。

大会3日目の午後には、中野常男氏（神戸大学）の司会のもと、戸田博之氏（神戸学院大学名誉教授）による記念講演「わたくしのカメラリストイク研究」が開催された。

前日の報告に続く統一論題討論では、瀧田輝己氏を座長として、4名の報告者とフロアの会員を交えた活発な議論が展開され、全日程を終了した。最後に、ご参加いただいた会員の方々および簿記学会役員の皆様に感謝の意を申し上げます。

《賛助会員（出版社）の活動と会員の著書紹介》

今回の企画について、会員の皆様には、ご承知のように本会には賛助会員もおりますが、これまで、これらの学会会員の活動について案内されることはありませんでした。そこで、全国大会でもご報告致しましたが、学会員としてこれら賛助会員の消息を掲げる欄を設けることに致しました。今回は、その第一段の試みとして、白桃書房、中央経済社の簿記に関する出版物を案内してみました。

以上の趣旨に基づき、簿記に関する著作であることは勿論、その著者が学会会員であることを条件としております。したがって、学会員でない著者は紹介する著者から外しております。これにより、会員の簿記研究教育に関する活動も紹介できるものと思っております。また、これらの蓄積により将来、学会として簿記に関するライブラリーを開設できればとも考えております。

なお、この賛助会員の消息については、出版に限らず、拡張していき、会員の活動を公告していくつもりでおります。

【白桃書房】

2010年1月～12月刊行

1 会計学・簿記入門（第10版）

〈韓国語財務諸表・中国語財務諸表付〉

A5判 360頁 定価3,465円 2010年3月

ISBN978-4-561-35187-0

執筆会員：石原裕也・神納樹史・中村亮介・新田忠誓・溝上達也・
村田英治・松下真也（準会員）

2 基礎簿記論

A5判 272頁 定価2,730円 2010年4月刊行

ISBN978-4-561-45170-9

執筆会員：川村文子・中嶋隆一

3 基本簿記テキスト2級商業簿記（第3版）

B5判 166頁 定価1,785円 2010年5月

ISBN978-4-561-45171-6

執筆会員：大倉学・大野智弘・崎章浩・鈴木昭一・山浦裕幸

4 基本簿記ワークブック2級商業簿記（第3版）

B5判 162頁 定価1,785円 2010年5月

ISBN978-4-561-45172-3

執筆会員：大倉学・大野智弘・崎章浩・鈴木昭一・山浦裕幸

【中央経済社】

2010年1月～12月刊行

1 ベーシック簿記教室

A5判 217頁 定価2,730円 2010年3月

ISBN978-4-502-03760-3

執筆会員：大坪史治・渋谷武夫・長谷川美千留

2 全経簿記上級商業簿記・会計学テキスト（第3版）

B5判 255頁 定価2,730円 2010年4月

ISBN978-4-502-04820-3

賛助会員：社団法人全国経理教育協会

執筆会員：赤城論士・浅野敬志・石原裕也・泉宏之・梅原秀継・
清村英之・草野真樹・佐々木隆志・佐藤信彦・佐藤文雄・白木俊彦・田代樹彦・角ヶ谷典幸・新田忠誓・野口晃弘・原俊雄・菱山淳・村上宏之・村田英治・山田康裕・吉田智也

3 簿記テキスト（第5版）

A5判 372頁 定価3,570円 2010年4月

ISBN978-4-502-03790-0

執筆会員：壹岐芳弘・泉宏之・大藪俊哉・原俊雄

4 スタディガイド基本簿記

A5判 191頁 定価2,310円 2010年4月

ISBN978-4-502-03780-1

執筆会員：国田清志・佐藤文雄・菱山淳・山内暁

5 テキスト上級簿記（第3版）

B5判 344頁 定価3,150円 2010年11月

ISBN978-450-204840-1

執筆会員：浅倉和俊・石川鉄郎・石山宏・梅原秀継・北村敬子・
小阪敬志・中村英敏・西山徹二・馬上望・増子敦仁・
吉田直美・渡部裕亘

6 税理士・会計士試験対応 実戦テキスト簿記論（第2版）

A5判 401頁定価3,570円 2010年11月

ISBN978-4-502-23560-3

執筆会員：小林秀行・長島正浩

[注] 会員の氏名掲載順序は「日本簿記学会名簿」に基づき、
アイウエオ、正会員、準会員順になっております。

平成 21 年 8 月 26 日以降，平成 22 年 8 月 26 日までに申し込まれ，8 月 27 日開催の理事会で入会が承認された新会員は以下の通りです。

入 会 会 員 名 簿

(名簿の番号は会員番号)

番 号	氏 名	所 属 機 関	番 号	氏 名	所 属 機 関
2010-001	原 邦 男	原 邦 男 税 理 士 事 務 所	2010-022	前 田 康 則	兵 庫 県 立 洲 本 実 業 高 等 学 校 東 浦 校
2010-002	神 田 貴 司	兵 庫 県 立 姫 路 商 業 高 等 学 校	2010-023	竹 口 圭 輔	法 政 大 学 経 済 学 部
2010-003	加 納 輝 尚	税 理 士 法 人 プ レ イ ン ズ	2010-024	石 光 裕	京 都 産 業 大 学
2010-007	川 原 尚 子	近 畿 大 学 経 営 学 部	2010-025	飛 田 努	熊 本 学 園 大 学
2010-008	戸 田 統 久	近 畿 大 学 経 営 学 部		〈 準 会 員 〉	
2010-010	佐 藤 雄 一	帝 塚 山 大 学 経 営 情 報 学 部	2010-004	伊 東 秀 幸	駒 澤 大 学 大 学 院 商 学 研 究 科
2010-011	向 井 篤 弘	帝 塚 山 大 学 経 営 情 報 学 部	2010-005	安 部 智 博	大 分 大 学 大 学 院 経 済 学 研 究 科
2010-013	望 月 哲 三	ア ク タ ス 税 理 士 法 人	2010-006	仁 木 め ぐ み	東 京 理 科 大 学 大 学 院
2010-014	井 上 定 子	流 通 科 学 大 学 商 学 部	2010-009	姚 小 佳	近 畿 大 学 大 学 院 商 学 研 究 科
2010-016	前 山 竜 哉	香 川 県 立 坂 出 商 業 高 等 学 校	2010-012	稲 垣 勝 也	東 京 理 科 大 学 大 学 院
2010-017	藤 浪 英 也	白 鷗 大 学 経 営 学 部	2010-015	諏 訪 有 香	近 畿 大 学 大 学 院 商 学 研 究 科
2010-020	山 口 義 勝	日 本 経 済 大 学	2010-018	石 田 万 由 里	明 治 大 学 大 学 院 経 営 学 研 究 科
2010-021	寺 島 栄 一	茨 城 県 立 茎 崎 高 等 学 校	2010-019	川 紘 宗	神 戸 大 学 大 学 院 経 営 学 研 究 科

事務局からのお知らせ

《会費振込のお願い》

本年度（平成 22 年度）の会費を未納の方は，下記宛に早急にお振り込みください。

口座番号 00190-9-23806 加入者名 日本簿記学会

《事務局への問い合わせについて》

事務局への問い合わせについては，連絡事務所にお願いいたします。

《住所・所属の変更について》

住所・所属の変更があった場合は，会費振込時に振替用紙にご記入いただくか，連絡事務所に書面にてお知らせください。

《日本簿記学会ホームページ <http://www.hakutou.co.jp/boki/>》

今回のニュースでもお知らせしておりますように，日本簿記学会学会賞の推薦書は学会ホームページからダウンロードが可能となっております。学会ホームページでは推薦書の他にも，大会・部会案内，『簿

記学会ニュース』のバックナンバーなどが入手可能です。また，学会入会申込書もホームページからダウンロード可能となっておりますので，入会希望者に申込書アドレスをご案内いただく等，会員の先生方のご活用をお願い申し上げます。

《訃報》

日本簿記学会会長・興津裕康先生は入院加療中のところ平成 23 年 1 月 19 日(水)にご逝去されました。葬儀は家族葬としてとりおこなわれました。ご冥福をお祈り申し上げます。なお，会則 11 条 2. の規定に従い，横山和夫副会長が職務を代行することとなりました。

(清水・原・和田・渡邊(貴)・渡辺(雅))

発行所
編集兼
発行人

日本簿記学会事務局

連絡事務所

〒 101-0021 東京都千代田区外神田 5-1-15

株式会社白桃書房

e-mail boki@hakutou.co.jp

URL <http://www.hakutou.co.jp/boki/>